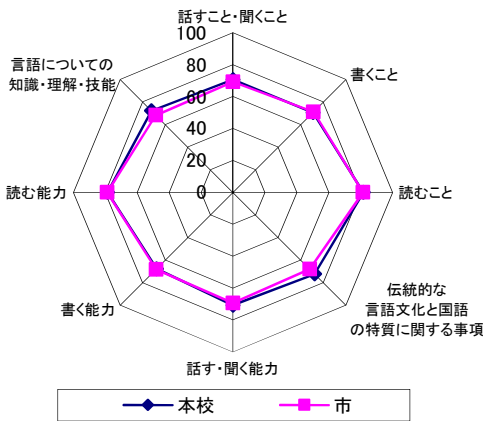


宇都宮市立西原小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	話すこと・聞くこと	70.7	69.3	73.4
	書くこと	70.8	71.3	74.6
	読むこと	81.7	81.5	81.5
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	72.3	68.1	71.6
観点別	話す・聞く能力	70.7	69.3	73.4
	書く能力	67.7	68.1	71.7
	読む能力	78.6	78.8	79.0
	言語についての知識・理解・技能	72.3	68.4	72.0

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

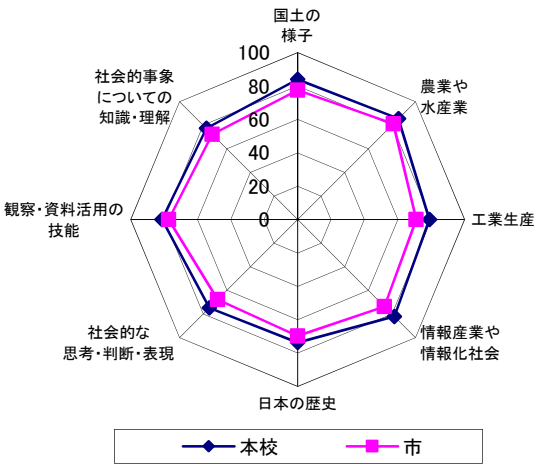
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	平均正答率は、市と比べてやや高かった。 ○司会の役割を理解し計画的に話し合うことについての問題の平均正答率が、高かった。様々な教科の授業の中で、グループでの話し合い活動を取り入れてきた成果であると考えられる。 ●話し手の意図を考えながら話し合いの内容をまとめる問題の平均正答率が低く、課題があった。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・日頃の授業の中で、自分の立場を明確にして話す、自分の意見との違いを考えて聞くなど、論点を整理して話したり聞いたりする学習をさらに続けていく。特に、国語の学習の中での話し合いの場面では、相手が何について話しているのか、話題の中心を念頭に置いて聞くことを重視していく。
書くこと	平均正答率は、市と比べてやや低かった。 ○自分の意見を明らかにして文章を書くことの問題は平均正答率が高かった。自分の考えを友達に分かりやすく伝える学習活動を日頃の授業の中で行ってきた成果であると考えられる。 ●資料の内容を読み取り空欄に合う文を選択する問題の平均正答率は、市と比べて低く、課題があった。	・収集した資料を効果的に使って説明する文章が書けるように、資料の種類に応じた読み取り方についても引き続き丁寧に指導していく。また、資料から視覚的に判断できる情報とそこから考察して得られる情報のそれぞれを活用して自分の意見をまとめていけるよう、社会、理科、総合的な学習の時間等の様々な教科の授業で個に応じた支援をしていく。
読むこと	平均正答率は、市とほぼ同じであった。 ○説明文の内容を読み取ることについての全ての問題の平均正答率が、市の平均正答率より高かった。 ●物語の内容を読み取ることの問題の中に、市の平均正答率よりも低いものがあった。	・物語文の場面描写や登場人物の心情について読み取る指導については、全教員で授業の進め方等についての共通理解を図り、発達段階に応じたより効果的な授業を行っていく。また、今後も様々な文章を読む機会を充実させることと、読んだことをもとに書いたり話したりする活動とを関連付けていくことも国語の授業の中で行っていく。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	平均正答率は、市と比べて、高かった。 ○第5学年配当漢字を書くことについての全ての問題の平均正答率が、市の平均正答率よりも高かった。 ●尊敬語の使い方についての問題の平均正答率が低く、課題があった。	・様々な教科の文章を書く活動において、これまでに習った漢字を使うことを個別に支援していく。 ・敬語の使い方については、図などを用いて相手との関係や場面を分かりやすく説明するなど指導方法を工夫していく。また、日頃から敬語を適切に使った言葉遣いを心がけ、コミュニケーションを円滑に行えるように指導し、言語に関する基礎知識の定着や語彙の充実を図っていく。

宇都宮市立西原小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の様子	84.0	77.5	74.0
	農業や水産業	85.5	81.1	73.7
	工業生産	79.0	71.1	73.5
	情報産業や情報化社会	82.0	73.7	63.2
	日本の歴史	73.7	69.7	73.5
観点別	社会的な思考・判断・表現	74.7	67.7	63.1
	観察・資料活用 of 技能	81.3	77.3	75.5
	社会的事象についての知識・理解	77.3	72.2	73.1

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

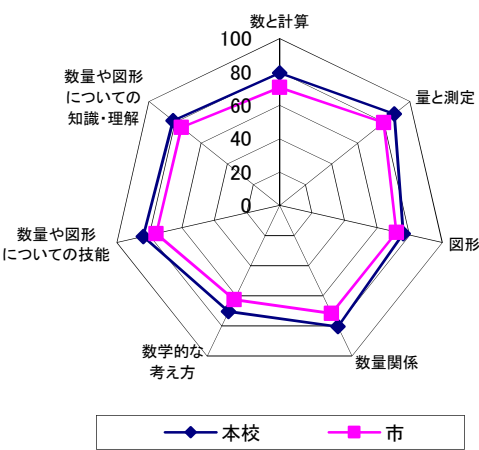
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の様子	全体的にみると、市や参考値(全国)の正答率に比べて高い。 ○日本の周囲の国の国旗についての問題や、日本の気候の様子について説明にあてはまる雨温図と都市の位置を判断する問題の正答率は、市、全国の平均に比べて高かった。 ○森林を守るための間伐についての問題や、防災マップや会話を参考に自然災害がおきた際の自分の大切さについて考えて表現する問題の正答率は、市、全国の平均に比べて高かった。 ●日本の周囲の海洋名についての問題の正答率は、市の平均に比べて高かったが、全国の正答率に比べて低かった。	・地球儀や地図帳を利用して調べたり確認したりしたことを、白地図に書き入れる学習活動を通して、具体的に理解させていく。 ・昨年度課題となっていた災害関連の問題において、今年度の結果が良くなった。災害関連の資料を調べ、災害に対して日頃からの準備や意識が大切であることを理解させる学習を丁寧に指導した成果であると考えられるので、今後も引き続き行っていく。
農業や水産業	すべての問題において、市や参考値(全国)の正答率に比べて高い。 ○日本の食料自給率について資料を読み取る問題や、日本の食料生産がかかえる課題について資料をもとに考える問題の正答率は、市や全国の平均に比べて特に高かった。	・資料を読み取ったり、資料をもとに考えたりする力をさらに向上させるために、資料をもとに考えた内容を順序立てて説明し合う学習活動や複数の資料を読み取る学習を発達段階に応じて丁寧に指導していく。
工業生産	すべての問題において、市や参考値(全国)の正答率に比べて高い。 ○工業地帯・工業地域の立地について資料を読み取り考える問題の正答率は、市や参考値(全国)の平均に比べて特に高い。	・日本の工業について、それぞれの工業地帯・地域の様々な特徴(立地条件、輸送経路、生産物、生産額など)について、表にまとめたり、テーマを決めて調べ学習を行ったりして、理解を深めさせていく。
情報産業や情報化社会	全体的にみると、市や参考値(全国)の正答率に比べて高い。 ○医療における情報ネットワークの利便性について資料を読み取り考える問題の正答率は、市や参考値(全国)の平均に比べて特に高かった。	・身のまわりにあるメディアや情報ネットワークについては、自分にとって身近な問題であるという意識が高く、実際にネットワークの一部として関わっている児童も多いことから、基礎基本の定着を図ることができている。引き続き、著作権や個人情報の保護などと関連付けて学習できるように指導していく。
日本の歴史	全体的にみて、市の正答率に比べて高い。 ○元の攻撃を退けた北条時宗についての問題や、殖産興業についての問題、日清・日露戦争についての問題の正答率は、市や参考値(全国)の平均に比べて高かった。 ●堅穴住居についての問題や、大和朝廷による国土の統一の様子について資料をもとに考え表現する問題の正答率は、市や参考値(全国)の平均に比べて低かった。	・歴史学習においては、一つ一つの資料を丁寧に読み取り、分かったことをまとめたり、さらに疑問に感じたことを調べたりするなど、主体的に取り組ませる一方で、年表などを活用して、歴史上の主な事象として広い視野からとらえさせることを通して、歴史の学習に対する関心が高められるような授業を行っていく。

宇都宮市立西原小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	79.5	70.8	65.9
	量と測定	88.0	79.9	77.0
	図形	76.0	71.8	74.6
	数量関係	80.5	71.7	73.4
観点別	数学的な考え方	70.5	62.5	59.4
	数量や図形についての技能	83.8	75.8	73.3
	数量や図形についての知識・理解	81.5	75.1	76.3

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

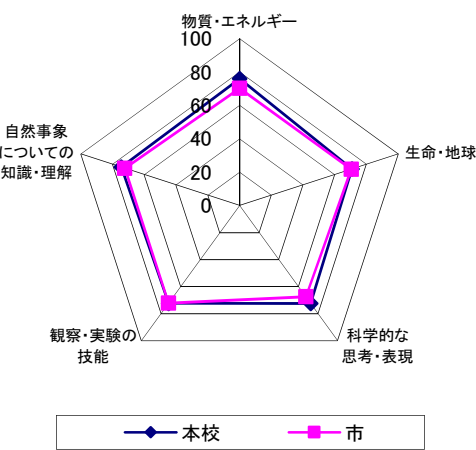
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○4月の全国学力調査の結果と同様、「数と計算」の全ての問題の平均正答率が、市の平均より高かった。習熟度別学習で個に応じた指導を行ってきたことや朝の学習や家庭学習で計算の繰り返し練習を取り組んできたことの成果であると考えられる。	・正しく計算できるようにするために、「計算の意味」と「計算の仕方」を図や数直線などを用いて関連付けながら考察し説明できるよう、引き続き指導していく。また、朝の学習や家庭学習において計画的に練習問題を取り組ませる。
量と測定	平均正答率は、他の領域より高い。 ○4月の全国学力調査の結果と同様、「量と測定」の全ての問題の平均正答率が、市の平均より高かった。授業の中で、自分の考えをノートにまとめたり友達の考えと比較したりする学習活動を行ってきたことにより、式を読み取る力がついたと考えられる。	・単位量当たりの大きさについての問題については、除法の式や求めた商の意味を理解できるよう、問題場面や図を提示したり、式や商の意味をその都度確認したりするなど今後も丁寧に指導していく。 ・面積や体積を求める問題については、どのように求めたかを説明したり、他の求め方を解釈したりする学習活動を今後も行っていく。
図形	平均正答率は、他の領域より低い。また、問題によって、平均正答率の差が大きかった。 ○多角形の内角の和と線対称な図形についての問題を除く全ての問題の平均正答率は、市と比べ高かった。 ●市の平均正答率とほぼ同じであった2問については、全国平均正答率と比べるとやや低かった。	・図形の性質を確認しながら作図したり、様々な観点で図形の特徴を調べて分かったことをノートに整理したりする学習活動を重視していく。 ・線対称については、線対称な図形の対応する2点を結ぶ直線と対称の軸との関係を調べる活動を通して、それぞれの特徴を比較しながら理解できるように丁寧に指導していく。
数量関係	○4月の全国学力調査の結果と同様、「数量関係」の全ての問題の平均正答率が、市の平均より高かった。特に、比例や反比例の問題の正答率が市の平均より高かった。第4学年より習熟度別学習で個に応じた指導を行ってきたことの成果であると考えられる。	・授業でグラフから資料の特徴や傾向を読み取る際には、グラフから分かることだけでなく、グラフのどの部分に着目して読み取ったかについても指導していく。また、グラフについては、算数科の授業だけでなく、他教科等の調べ学習などの際にも活用しながら、グラフを読み取る力を育てていく。

宇都宮市立西原小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	76.0	70.3	69.0
	生命・地球	70.8	70.4	70.2
観点別	科学的な思考・表現	72.4	67.5	66.4
	観察・実験の技能	72.4	72.3	68.9
	自然事象についての知識・理解	74.5	72.3	71.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	平均正答率は市と比べて高い。 ○物の燃え方についての設問では、全ての問いで正答率が市の平均を上回った。実験の結果だけでなく、考察することまでを重視して取り組んできた成果であると考えられる。 ●物を水に溶かす前後で重さを比較する問題では、「重くなる」と誤答する児童の割合が多く、水溶液の性質についての理解が十分でない様子が見えた。	・水に物を溶かす場面では、「(水に物を)加える＝増える＝重くなる」といったイメージによる誤認が生じることが考えられる。実験の前に児童に予想・仮説を立てさせ話し合いの場を設けてから実験に取り組ませることや児童を主体とした実験を行うこと、結果を整理した後には考察する時間を十分に取ることなどを通して、学習内容の理解が深められるように指導していく。
生命・地球	平均正答率は市と比べるとほぼ同じである。 ○植物の発芽に関する設問では、対照実験の目的や発芽する理由についての設問で正答率が市を上回った。記述式の問題でも正答率が高く、思考力や表現力の高まりも感じられる。 ●「はく動」という言葉を覚えている児童が少なく、知識の定着に課題が見られる。	・基本的な語句・用語については、学習内容を自分なりにノートにまとめる等、学んだことを表現する機会を意図的に設定することで、知識の定着や表現力の向上を促す。

宇都宮市立西原小学校 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
基礎・基本の確実な定着、児童の実態に応じたきめ細かな指導	西原小「学習の約束」をもとに、基本的な学習態度を身に付けることができるよう全教職員で共通理解を図ってきた。また、年度初めに各教科の授業の進め方や朝の学習、家庭学習の実施方法等についての共通理解も図ってきた。	県や市の学習状況調査結果から、5、6年の国語・算数の基礎・基本の正答率は、市や県と比べ高かった。しかし、4年の漢字の読み書き、計算の問題において課題があった。日々の授業や朝の学習、家庭学習の指導の在り方を見直し、学校全体できめ細やかな指導を行っていく。
体験活動や課題解決的な学習の展開、思考力・判断力・表現力を育てる指導の工夫・改善	言語活動の充実、学び合いの場の設定、ノートや板書の工夫、振り返り活動の充実を行い、児童が学びを実感できる授業を目指す授業の在り方について、共通理解を図れるよう校内研修を行ってきた。	市の調査から、全ての学年で「話を聞く」「ノートにまとめる」等の設問の肯定的割合は市と比べ高かった。しかし、3年の「理由をあげて話す」「グループでの話し合いへの積極的な参加」等の設問の肯定的割合は市と比べ低かった。今後、発達段階に応じた言語活動の充実を目指した授業改善を行っていく。

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方角性

- ・新学習指導要領に基づいた授業を目指すことが出来るよう、全ての教科について授業の進め方等の共通理解事項を年度初めに提案したり、学校全体で校内研修を計画的に実施したりしていく。
- ・基礎・基本の確実な定着を目指して、朝の学習の時間で繰り返し学習（宮っ子ステップアップ、漢字・計算ドリル等）を計画的に実施していく。
- ・県のとちぎっ子学習状況調査の結果から、国語の「読むこと」に課題があった。国語の授業の進め方や読み取りの指導のポイントについて共通理解を図ったり、家庭学習や朝の学習の時間を活用したりして重点的に指導していく。